

# 統合すべきではない

## 地域住民不満の声

### 警察署再編「なぜ砂川署対象」住民説明会

#### 砂川署

【砂川】道警本部による「警察署の機能強化に向けた再編整備計画説明会」が17日から砂川署で始まった。砂川署を滝川署に統合して分署とする内容を柱に、一般住民を対象にして説明が行われた。高濱厚 警務部治安総合政策室長は「統合による治安上のデメリットはない。むしろ現在の不安な材料を解消するもの」とメリットを強調。しかし、参加者からは「統合するべきではない」との声が続出した。また、参加者から「砂川署よりも小さな警察署があるにもかかわらず、なぜ砂川署が統合の狙い撃ちされたのか。本質は庁舎の老朽化では」との質問に、「道の財政は逼迫しているが、庁舎の老朽化による建替えが直接的な問題ではない」とし、地理的な生活圏が一緒であることが統合の主要因であることを強調した。

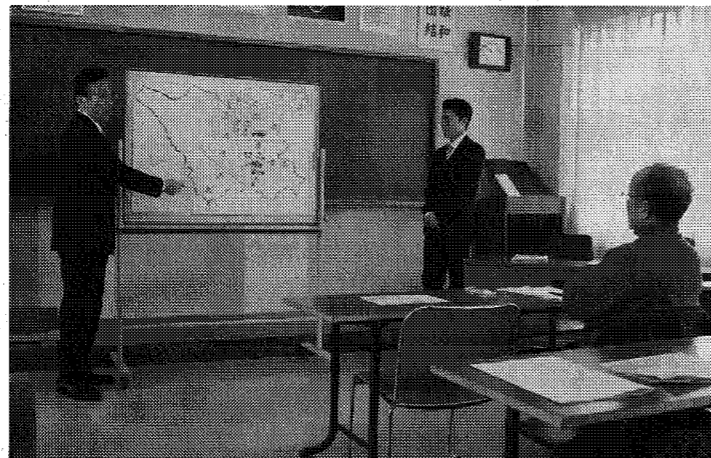
#### 道警はメリット強調

初日の砂川市民を対象にした説明会には11人が出席した。高濱室長は砂川署の夜間当直における人員のやりくりや、留置場の人員不足を交番や駐在所から回して対応していることなどの課題を挙げ「現在は、駐在所など現場が不在になるケースがあるなど、無理をして警察署としての体制を維持している。体制が小さいだけに多くの課題を抱えている」と

と現状を説明した上で、「このような体制を続けることが、地域の安全や安心を守れているのだろうか、と考えると先送りできない問題。(統合することで)不安を解消し、地域に頼れる警察署の機能を図っていききたい」とした。

また、出席者から「なぜ砂川署だけが統合の対象なのか。もっと署員が少ない近隣の赤歌署や芦別署でも砂川署と同じ課題を抱えており、同じように滝川署と統合した方がメリットは出るのでは。その判断基準は何なのか。砂川が狙い撃ちされた統合の本質は庁舎の老朽化による建替えがでないからなのか」と質問。これに対し高濱室長は「庁舎の(老朽化)問題が直接的ではない。判断基準は一口でいえば、距離が近く生活圏が一緒であること。砂川署と滝川署は統合の効果が大きい。また、留置場に対応する人員的を見て、砂川署が近隣で一番つらい。また、一度に数多くの統合は果たしてどうなのだろうか。まずは2署を1つにして、そこで効果を検証した上で、周りでさらに必要であれば統合を拡大していくという考えもある」と理解を求めた。一方で、「道内69警察署のうち小規模警察署がまだ約半数あり、統合による整理は全道的に慎重に検討を続けていきたい」との考えも示し、まずは砂川署などを足がかりに、今後さらに道内における統合や再編を行っていく考えに含みを持たせた。

このほか高濱室長は「統合となっても、現在ある砂川署管内の交番や駐在所の数と人員に変更はない」「今回示した警察署の再編整備は、地域の安全や安



砂川署で行われた住民説明会

心確保する上で絶対1件もない。犯罪件数に必要であり、先送りで少なく悪い人はいない」「砂川署のい」「今後は地域に出向いて丁寧な説明を行っていききたい」などと

話した。説明会に参加した北光に住む尾崎壽さん(78)は「市役所に懸垂幕が掲げられている通り、私たち住民の願いは今の砂川署を継続すること。住民の意思を無視して勝手に統合が進められてはいけません。居ても立ってもいられずに参加した。今回の説明は私の知っている警察官とは違う。道警本部は砂川署と同じ番号なのかと疑問に思うくらいに非情に感じました考えにない離があった」と話した。また、吉野地区住むある町内会長(76)は「たくさん質問した

が理解できなかった。町内会の住民にきちんと説明できるか不安」と話した。なお、18日夜に上砂川町民を対象とした説明会には2人が参加した。きょう20日には浦臼町民を対象にした説明会を午後6時半から砂川警察署で行う。